

平成28年度学校評価実施計画

学校名 聾学校

前年度評価結果の概要	重点目標について、保護者アンケート結果では、中間アンケートでは平均達成率80%であったが年間アンケート結果では85%となり達成指標としていた取組をほぼ遂行できた。ただし日本語(活用)力をさらに高めるため、残された課題解決のための新たな方策を導入することも視野に引き続き言語活動を充実していくことが望まれる。
------------	---

教育目標	中期目標	重点目標
聴覚に障がいのある幼児児童生徒一人一人の実態に即し、各学部間の連携による一貫した教育を行うことにより、障がいによる困難を主体的に改善・克服し、社会参加や自立するために必要な知識・技能・態度・習慣を養う。	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 幼児児童生徒が主体的な活動を行うために必要な基礎的・基本的な知識・技能・態度及び習慣を身に付けさせる。</li> <li>(2) 一貫教育確立のため各学部間や寄宿舎との連携システムを構築する。</li> <li>(3) すべての教員が教育相談活動に必要な知識・技能を身に付ける。</li> </ol>	本校教育活動のあらゆる場面において、適切な合理的配慮がなされているかを検証し、子ども達の確かな成長を促す。

PL: プロジェクトリーダー、SL: サブリーダー

重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL SL
本校教育活動のあらゆる場面において、適切な合理的配慮がなされているかを検証し、子ども達の確かな成長を促す。	○「個別の教育支援計画」に保護者との合意に基づいた合理的配慮が明記されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「個別の教育支援計画」について、合理的配慮の視点から保護者と確認し、必要に応じ修正する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と毎学期始めと終わりに実施する個別懇談の際に、確認の機会を6回もつ。</li> <li>・学部全体で、保護者と協議した合理的配慮について共通理解する会議を学期当初を含め年に3回以上もつ。</li> </ul>	PL: 幼稚部主事
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「個別の指導計画」が、「個別の教育支援計画」に基づいたものになるよう、学部で「個別の指導計画」作成に必要な保護者のニーズを踏まえた情報を共有する場を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全児童に対して「自立活動の年間指導計画」を共通理解する場を1・3学期の年間2回設け、それぞれ「個別の年間指導計画」に反映させる。</li> </ul>	PL: 小学部主事
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒、保護者のニーズを把握し、適切な支援を提供できるように合理的配慮についての研修を行う。</li> <li>・生徒、保護者の求める合理的配慮について学部内で共通理解を図りながら合意形成を図り、必要に応じて修正を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合理的配慮についての研修の場を学期に1度設ける。</li> <li>・「個別の教育支援計画」に記載した合理的配慮について中間期に1度保護者と共に見直しを行う。</li> </ul>	PL: 中学部主事
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自身が、自己の障がいを認識するとともに、合理的配慮の必要性を理解し、自分に必要な合理的配慮を伝える力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学期始めと終わり2回保護者と十分話し合い、個々の生徒に対する合理的配慮について共通理解をもち、「個別の教育支援計画」に記載する。ケース会議等を経て、情報共有し、「個別の指導計画」に反映させ指導にあたる。</li> <li>・各教科を始め学校生活の様々な場面で、個々の生徒に合わせたメモの活用を工夫し、80%以上の職員生徒がメモの効果を実感できるように取り組む。</li> </ul>	PL: 高等部主事